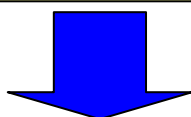


大地震発生時の避難マニュアル (和泉キャンパス) 【学生用】

大地震発生時の初動マニュアル

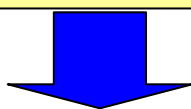
地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！(落下物に注意)**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。



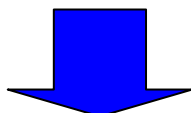
地震直後の行動

- (1) **余震に注意**
- (2) **火の元確認。初期消火！**
ガスの元栓、コンセント(電気ストーブ等)を確認
出火した時は、落ち着いて消火活動と守衛所への通報
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室内の安全を確認**
声をかける、ケガ人がいないか確認



地震後の行動

- (1) **教職員、館内放送の指示に従う。**
傷病人がいたら、守衛所に通報する。
- (2) **教室の安全再確認**
火の元のチェック。
- (3) **周囲の状況を確認する。**

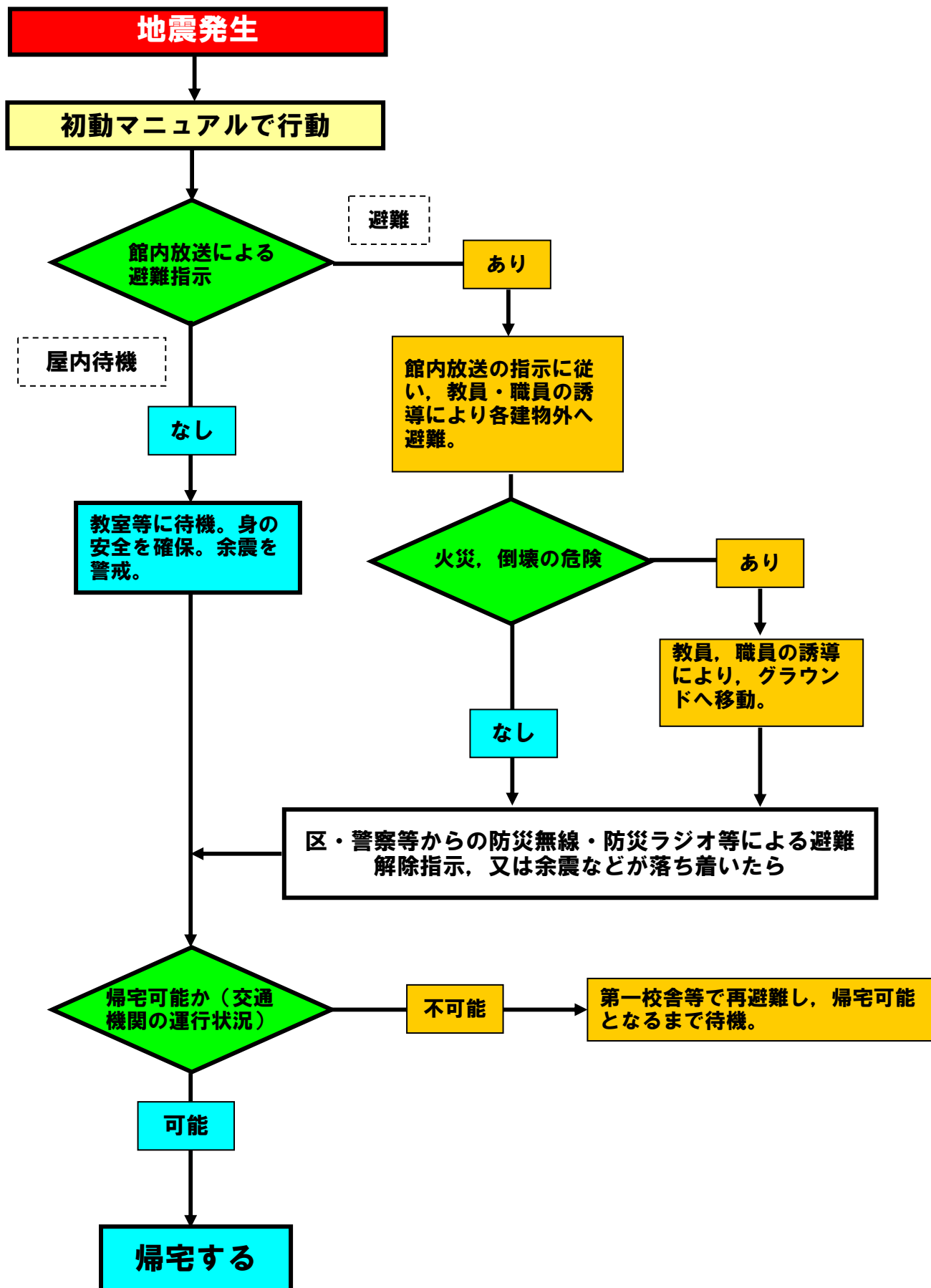


以下、避難フローへ

緊急連絡先：正門守衛所(03-5300-1122)



避難フロー



大地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、地震が発生した場合の対応及び避難経路図を掲出していますので確認してください。

【地震時の心構え】－落ち着いて行動－

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、**身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください**。本学の建物は耐震建築がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】－身の安全確保－ <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、自動販売機やロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】－避難口の確保と火の始末－

小さな揺れのときや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保し、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】－状況確認と救出・消火－ <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、守衛所にも連絡をしてください（守衛所から119番通報します。）。**消火の際は、身の安全を第1に考え、消火器では消えないような火災のときは、直ちに避難してください**。

【エレベーター】

大きな地震の時は**最寄り階に止まるように設定されていますが**、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、**万が一、降りられなくなったら、E V内の非常ボタンを数秒間押しして警備員に連絡した後、E V保守業者による救助を待ってください**（閉じ込めの発生しているE Vは業者の最優先対応となります。）。

【屋外避難】

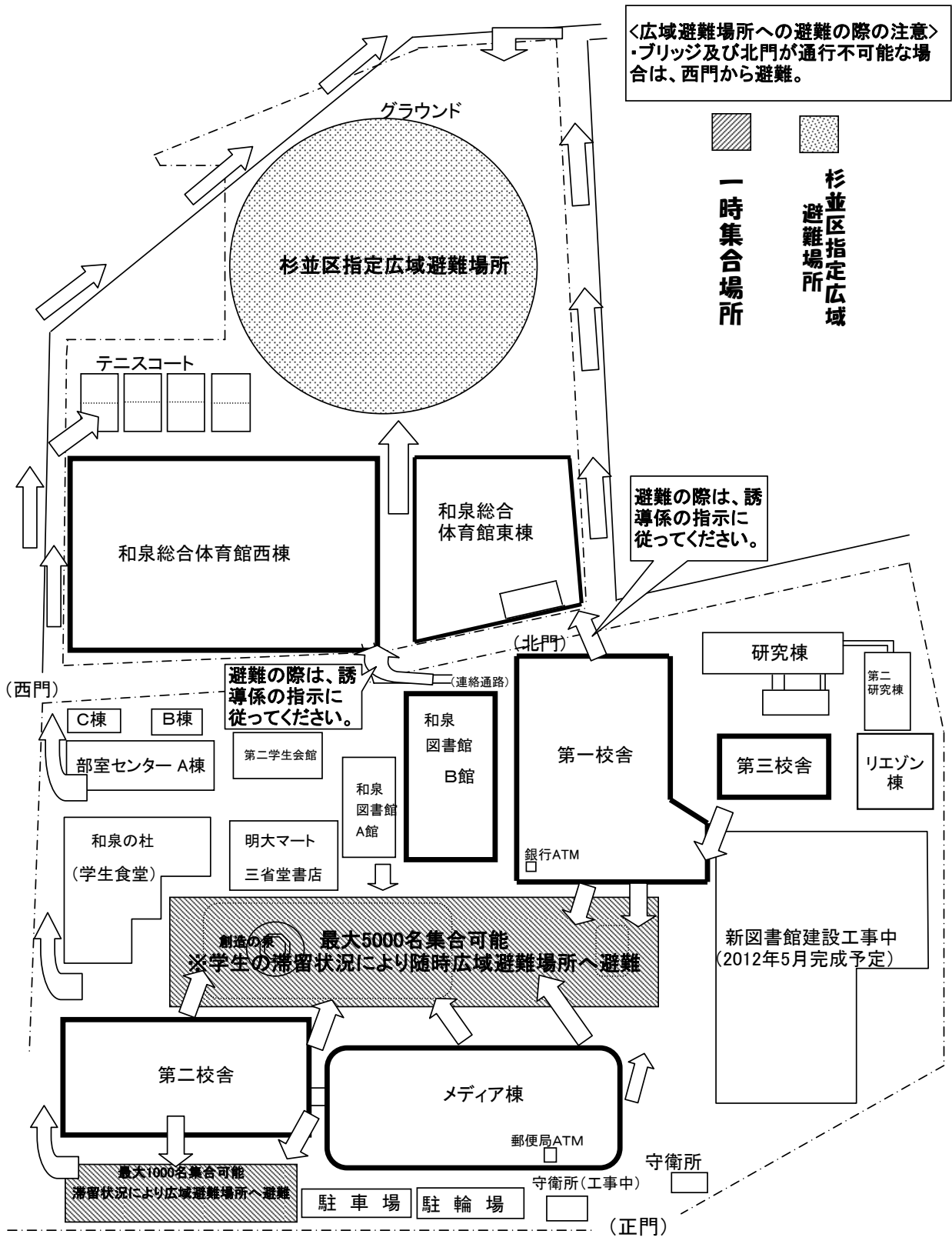
地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物外へ移動してください。その後、杉並区指定広域避難場所のグラウンドに移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※和泉キャンパスでは、原則、震度「4」以上の場合に館内放送を行います。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、**体制が整い次第、HP及び所属の学部事務室から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせします**。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。

和泉キャンパス



至八王子 ← 甲州街道(国道20号線), 首都高速4号線 → 至新宿